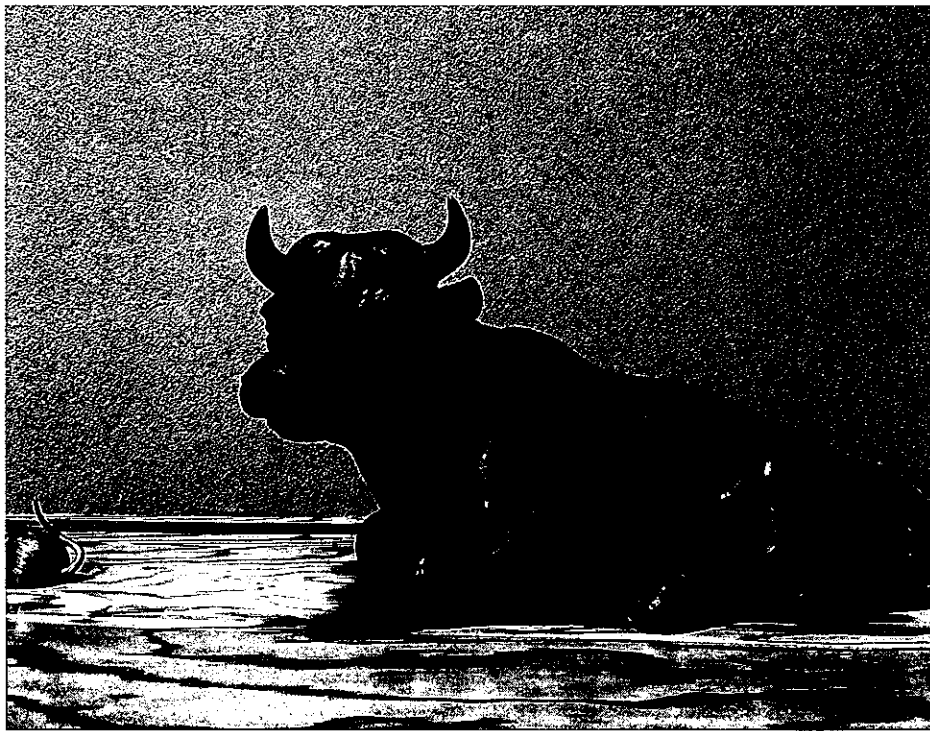


『自己を見つめ良い一年を』



蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆  
近藤真弘

F940-0052  
長岡市神田町1丁目4番10  
TEL.0258-32-2811

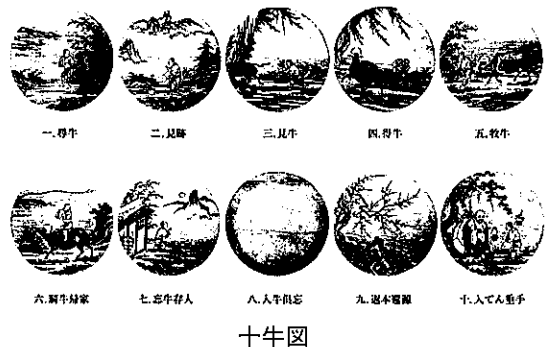
◆スタッフ◆  
小林国二・高橋 潔・高橋利春  
屋代 健・飯泉隆史・山内芳次  
近藤龍弘・近藤マリ子・近藤久美子  
印刷・協中央印刷

泰忍 弘

新年あけましておめでとう  
ございます。昨年は誰もが予想  
しない大変な年でありました。  
本年は従来の有り難かった日  
常に戻ることを切に願います。  
昨年、「鬼滅の刃」というア  
ニメが大流行しました。私も子  
供と一緒に映画を観に行きま  
したが、大人でも十分楽しめ  
ヒットするのも納得でした。こ  
のアニメはタイトルの通り悪  
い鬼を退治するお話です。鬼と  
いうと皆さんはどんな姿を想  
像するでしょうか。多くの方は  
頭には角が生えており、裸で寅  
のパンツを履いている姿を想  
像すると思います。実はこの姿  
には今年の干支である「丑」が  
かかわっています。これは陰陽  
道に由来し、邪悪な鬼が出入り  
する方角を鬼門と呼び、その方  
角が「丑」「寅」だったことか

ら鬼は丑の角と、寅のパンツの  
姿になったとのこと。  
ちなみに陰陽道という鬼門  
の反対の方角が「未」「申」に  
なり、羊は角があり鬼の角と通  
じるので避けられ、「申」以降  
が「酉」「戌」なので桃太郎で  
は鬼退治のお供が猿と雉と犬  
だったといわれています。  
今年の干支である「丑」にち  
なんだお話は仏教にもありま  
す。それは「十牛図」です。「十  
牛図」とは、逃げ出した牛を探  
し求める牧人の様子を、段階的  
に描いた十枚の絵です。十枚の  
絵にはそれぞれ詩が添えられ  
ています。ここではすべてを詳し  
く説明することは出来ません  
が、端的に言う「牛」は「ほ  
んとうの自分」の象徴で、牛を  
探し求める牧人は「真の自己」を  
究明する自分をたとえたもの  
です。「十牛図」とは、俗世間  
の生活の中で自分を見失い、ほ  
んとうの自分を探しに旅に出  
る若者の物語です。「自分とは  
何か」を探し求める旅の物語絵  
は、禅の悟りにいたる道筋を表  
しています。自分の人生はこの  
ままでよいのだろうか、自分の  
したいことがよくわからない、

自分に自信がなくて周りの人  
と比べてばかりいる、など、社  
会の中で生きているとさまざ  
まな苦しみが生れます。道元  
禅師は「正法眼蔵」において、「仏  
道をならふといふは、自己をな  
らふ也」と述べています。苦し  
み、つまり煩惱を滅して悟りの  
境地に達するには、真の自分に  
向き合うことが大切だと「十牛  
図」は教えています。悟りの境  
地という構えてしまいます  
が、まずは自分の心に分け入る  
旅に出るきっかけをつかむこ  
とが、大切かもしれません。自  
己を改めて見つめる。今年一年  
の目標に掲げてはいかががで  
しょうか。



ご家族の皆さままでご覧下さい

# 【越後曹洞宗名刹巡り】 越後四箇道場 山中に佇む七堂伽藍

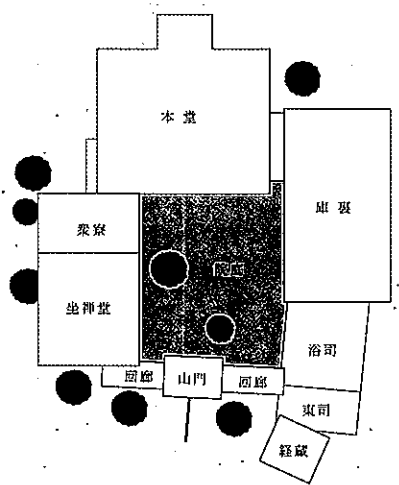
五泉市 慈光寺  
〒九五九一-一七三五 五泉市蛸野八七〇

霊峰白山の麓に座する古刹「慈光寺」は楠木正成の直孫、傑堂能勝禅師により応永十年（一四〇三）頃、中興開山されたと言われる越後四箇道場の一寺である。  
建物は宝暦五年（一七五五）



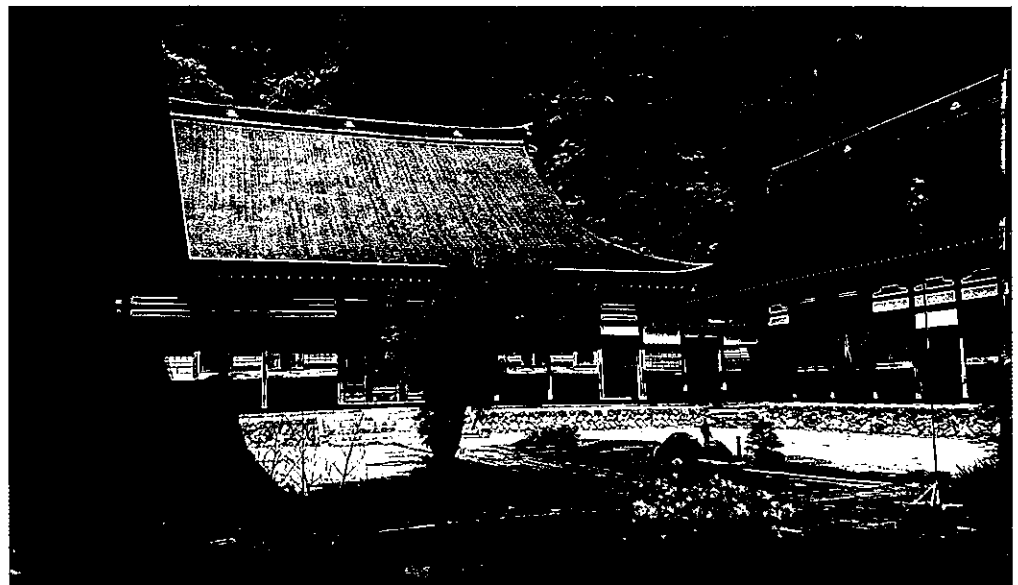
の火災後に再建したもので、本堂は宝暦十二年（一七六三）、庫裏は宝暦九年（一七五九）、禅堂及び衆寮、山門、回廊、経蔵は江戸時代後期の建築である。  
祖庭の周囲を回廊と七堂伽

藍で囲む造りは禅宗の代表的な伽藍配置であり、中でも本堂、庫裏、禅堂、衆寮、山門、回廊、経蔵、虚空蔵堂が国登録有形文化財に指定されている。長い参道には樹齢数百年の杉の木が立ち並び、歴史の深さを感じさせられる。巨木の突き出た枝が龍に見えることから龍神杉とも呼ばれる杉の木も見どころの一つであり、



竜神杉

お寺の地域は全国でも有数の銀杏の産地であり、樹齢二百年〜六百年と云われる巨木が数本あり、秋には周囲一面が黄金色に染まり、見事な景観を見せてくれる。



七堂伽藍に囲まれた祖庭



## 東堂和尚のひとりごと (第四回) 今日一日、この一時を 精一杯生きる

昨年は新型コロナウイルスに振り回された一年で、日本で、世界でそれぞれの生活が大きく変わりました。

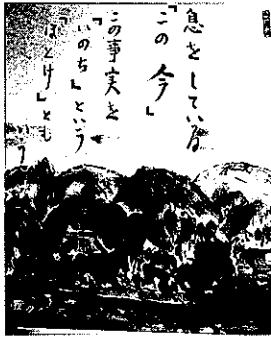
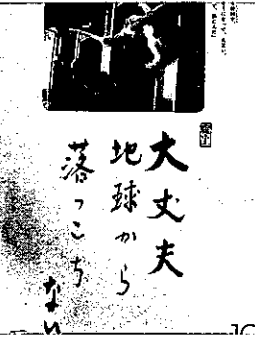
一昨年十二月に中国、湖北省の武漢で新型コロナウイルスによる患者が報告され、年が明けるとまたたく間に世界中へと拡散し、現在でも猛威をふるい続けています。

感染拡大以降は、三密を避ける注意や外出自粛、マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保、テレワークの普及、オンライン会議、オンライン飲み会等々、生活環境も大きく変わり、新しい生活様式に戸惑いを感じているのは私だけでしょうか。

「自粛警察」という言葉も生まれ、自粛を守っていないように見える人や店に対して暴言を吐いたり、威嚇的な言葉を用いた張り紙を貼ったり、他県ナンバーの車にいやがらせ等、またコロナ感染は自己責任とばかり

り、感染家族が白い目で見られたり、いじめの対象にされたりとマスクで多く報じられました。これらは多くの人々が戸惑い、不安を抱き、強いストレスを感じてのことではないでしょうか。

感染への不安、自粛生活、経済、仕事、将来の心配、また、それぞれの地域の文化、習慣、価値観等も短期間に変わり始め、コロナ疲れと共に精神面にも不調を感じます。若い人と違いコロナ時代の新しい生活に私などは中々順応できません。もやもやしている時、昨年十月に遷化された板橋禅師様の書かれた言葉（写真）が思い出されました。「大丈夫、地球から落ちこまない」「明日の心配より今日の無事」「息を吐いて」「この今」「この事実を」「いのち」という「ほとけ」ともいふ。



板橋禅師様の書かれた言葉

ウイルス問題も災害の一つと思えば、人類は過去においても数多くの自然災害に遭遇してきました。あまりにも多い情報に振り回され、自己を失いがちです。今年も、わからない先のことに不安を持つよりも、今日一日、この一時を精一杯生きることが安心の生活と信じ、一日一日を感謝の毎日としたいものです。

### 安善寺 よろず掲示板

#### 「大本山總持寺にお米を送る運動」のご報告

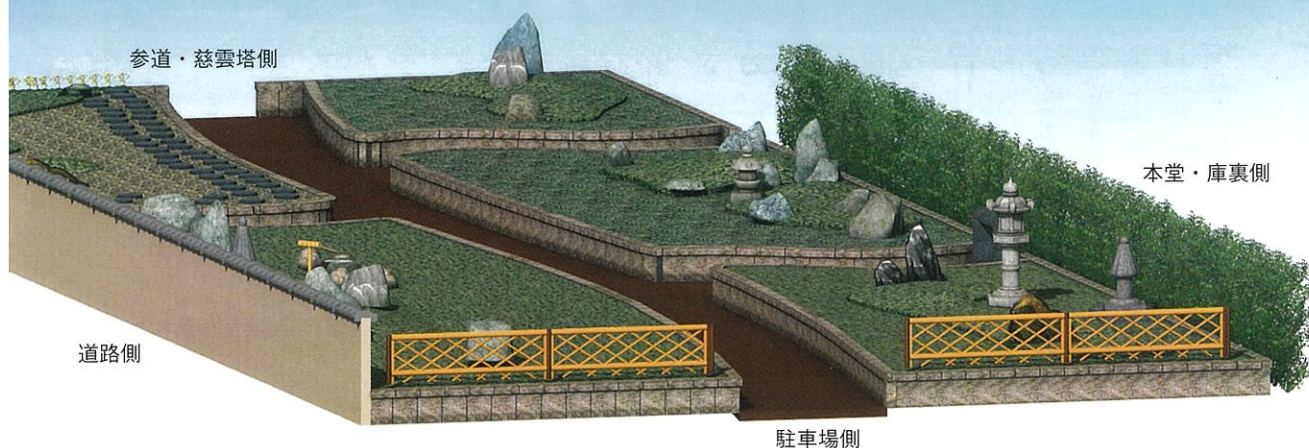
過去最高の9,681kgのお米が集まりお届けされました。昨年の「大本山總持寺にお米を送る運動」ですが、安善寺檀信徒の皆様からも沢山の協力を賜りましたこと御礼申し上げます。  
今回は總和会・嶽山会新潟県中越支部全体で386名の方からご協力を賜り、過去最高の9,681kgのお米が集まりました。昨年十一月二十六日に無事、大本山總持寺にお届けいたしました。



一部を大黒尊天前に奉納

大本山總持寺にお米が届くと一部を大黒尊天前に運び、献米諷経を行います。越後のおいしいお米を戴き、修行僧も

従来の庭と一体化し  
 長岡の街中にありながら  
 緑豊かな佇まいとなります。



令和3年5月完成予定

施工：株式会社 放光



平成二十六年に建立した永代供養墓「慈雲塔」も間もなく七年が経ち、現在多くの方々が納骨されております。毎年秋の彼岸明けの日に慈雲塔に納骨されている諸精霊の合同の供養法要を本堂並びに慈雲塔前で厳修しております。

この度新たに本堂での法要の際にお祀りする「慈雲塔諸精霊位」のお位牌を作成し、開眼いたしました。このお位牌は慈雲塔法要以外の時は位牌堂に安置しておりますので、慈雲塔にお参りの方はあわせてお参りください。

【特集②】  
 『慈雲塔諸精霊位』位牌開眼

【特集①】  
 安善寺 樹木葬のご案内  
 庭園型樹木葬墓「翠緑の小径」を造立

令和三年五月完成予定

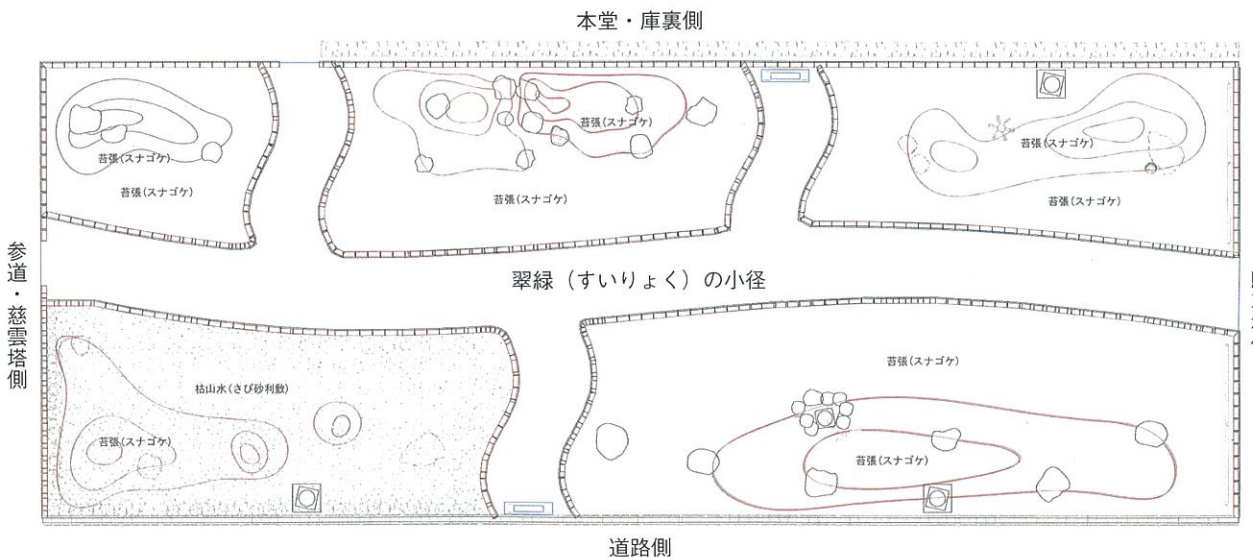
「私たちが亡くなっても、後を見る者がいないので。」と、言う声が聞かれるようになって久しい気がいたします。大家族が多く、お墓を守っていくのは当たり前、と思っておりましたが、核家族化が進む中、それが当たり前ではなくなってまいりました。安善寺においては、永代供養墓として参道に入って右側に現在「慈雲塔」があります。こちらにもそのような声に応えるべく平成二十六年に建立いたしました。

この度、慈雲塔とは少し意味合いは違いますが、「個の墓」「ご夫婦だけの墓」として、庭園型樹木葬墓「翠緑の小径」を道路側に面した境内地に新たに造立することになりました。月極駐車場として使われていた場所に塀を回し、苔と石で雰囲気を出して従来の庭と一体化し、街中にありながら緑豊かな佇まいになります。完成は今春のゴールデンウィーク頃を予定しております。

安善寺 庭園型樹木葬墓  
 『翠緑の小径』を  
 境内地に新たに造立

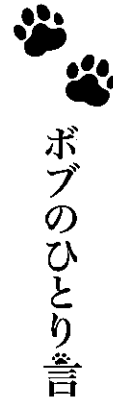


【樹木葬墓 図面】





# 愛を持って見つめる、 新しい年の約束事



ボブのひとり言

新しい年がはじまりました！ 因縁深いネズミ年を終え、丑年らしく白黒の牛柄毛皮をまとった私は新年早々気分がいい。のほろが：昨年

末、ネズミ年を惜しむかのようには真人君と悠真君がハムスターを家に招き入れた。しかも4匹。日中は静かなのだが夜中になるとカタカタと回し車の音が部屋中に響く。怒ら



丑年らしく白黒の牛柄毛皮をまとった私

れるとわかつているのだが本能に逆らえず、ハムスター達のケージの前で目をキラキラさせて狙ってしまふ私なので

もう一つ私がガラガラしてしまうものが、これもまた子供たちにせがまれて飼うことになった金魚たち。水槽を泳いでいる姿を見ると猫パンチを出さずにはいられない。

ちゃんと世話をすることを条件に飼っていいと許したのだが、結局住職や久美さんが世話をすることに。所詮ネズミだ、魚だ、と嫌がっていた久美さん。いままでは毎日話しかけるほどかわいがっている。ペットを飼う時の約束も含め、子ども達と勉強や生活様々なことで約束を交わす久美さん。学校から帰ってきたら荷物は決まった場所へ、そしてすぐに宿題、テレビは見すぎない、ゴミはすぐにゴミ

箱へなどなど：しかし私の知る限り子供たちが約束を守るのもつて数日、ひどいときには何時間か後には約束したことすら忘れ去られていることもある。

子ども達を見ていると、言われたからする、しなかったら怒られるというだけ。なぜそうすべきなのか理由を話し合ってから約束することが大事だったのかもしれない。

悪いことはしない、善いことをする、すべてのものを大事にするという仏様との約束があります。日々の中で子供も大人も守っていきたい約束事です。猫である私はとりあえず、いたずらはしない、家族に寄り添う、金魚たちやハムスターたちには愛を持って見つめる、これを今年の約束事にしようと思っている。大事にするニヤーン。

## 編集 雑感

新しい年を迎えました。昨年コロナで大騒ぎになっていましたが、今年もまだまだ終わるそうにありません。ワクチンの接種をしても果たしてどうなるか！ コロナウイルスが変異しているよう不安は尽きません。

お隣の大国から出た割に大国の状況が判りません。13億人も居て収束したような報道ばかり。武漢ウイルスとして世界にばらまいたようで、すでにワクチンが出来ていたのか！ 不思議です。

経済と健康と悩ましい限りです。最も大変なのは今までの生活様式が変わるといふ事です。オンラインで済むことが多くなり、対面のあるべき姿が影を潜

めようとしています。人と人との繋がりも変わってくるのでしょうか！ 寂しい気がします。マスクと消毒は当たり前、三密により人込みには行かない、外食や旅行も自粛と行動に制約が付きまとう。仕事によってはコロナで一発アウトも多いでしょう。感染の勢いが強いだけに戦々恐々の昨今です。

新しい年になり世知辛くなっています。子(ねずみ)のようにならぬように。昨年からのんびり牛歩の年が変わったのですから、足元を見直した年にせねばならないでしょう。

世の中が変わろうとしていても人の本質は変わりません。常に正しくあれです。正見(しょうけん)・正思惟(しょうしゆい)・正語(しょうご)・正業(しょうごう)・正命(しょうみやう)・正精進(しょうしやうじん)・正念(しょうねん)・正定(しょうじやう)の八つの正しいことを行わねばなりません。煩惱の塊の自分は域に達することは難しいですが努力しています。

まだまだ混乱は続きますが、皆様方におかれましては良き年となるように願ってやみません。人類の英知を信じて困難を克服すべく、皆様とともに歩んでいきましょう。今年も季刊誌への皆様の投稿をお待ちしております。  
(小林国一 拝)

## お便り原稿用紙

皆様からの原稿をお待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仕事のしきたりや疑問(編集部や住職がお答えします)など。

〈原稿送付先 FAX 0258-32-2870〉

第九十三号、春号は令和三年三月十日(水)発行予定です